

3. 絵画・工芸 [図表P.190~191]

◎18 ^{おがたこうりん}尾形光琳 …『紅白梅図屏風』『燕子花図屏風』

などの傑作を描き、装飾画を大成。

蒔絵にも優れ、『19 ^{やつはしまき え ら でんすずりばこ}八橋蒔絵螺鈿硯箱』など

の傑作を残す。

◇住吉具慶^{ぐけい}…幕府御用絵師となり、住吉派隆盛の基礎を築く。代表作『洛中洛外図巻』

◇土佐光起…宮廷絵師となり土佐派を復興。

◎20 ^{ひしかわものぶ}菱川師宣 …浮世絵の確立者。自分の作品に署名を入れた最初の画家。彼は『浮世絵版画』

を創始したが、それは墨一色刷のもの。かれの代表作といわれる『21 ^{見返り美人図}』

は肉筆。

(多色刷りの版画すなわち錦絵は18世紀半ば以降に活躍する22 ^{すずきはるのぶ}鈴木春信 によって創始された。)

◇23 ^{ののむらにんせい}野々村仁清 …色絵を完成し、京焼の大成者となる。

※尾形光琳の弟・尾形乾山^{けんざん}も野々村仁清に陶芸の技法を学び、作品を残した。

◇着物では友禅染 (京友禅・加賀友禅) が広く知られ、流行した。

◇ 男性ばかりの歌舞伎界では女性の役も男性が演じます。これを女形といい、教科書にも出てくる初代芳沢あやめは日常生活において女性らしさを徹底的に研究して、女性以上に女性らしい、といわれたそうです。なお「女形」は通常「おんながた」と読みますが、「立女形 (最高位の女形)」、「若女形」、「老女形」などのように、「女形」の前に語句が置かれる場合には「たておやま」、「わかおやま」、「ふけおやま」というように「おやま」と読まれるようです。(私は一時期「おやま」が正しくて、「おんながた」が間違いだと思っていた時期がありました。)

◇ 図表 P.173左上「^{たわら や そう たつ りん ば}俵屋宗達と琳派」は2年生の終わりに読んでいると思いますが、記憶にありますか？。今回のプリントで登場する^{おがたこうりん}尾形光琳は江戸時代からの人気絵師であったようですが、特に幕末から明治初期に海外で高い評価を得て、明治の日本画家たち (横山大観ら = 明治の文化で登場) に多大な影響を与えた偉大な画家とされています。対して寛永期の文化で学習した俵屋宗達はその生涯が明らかでないところが多く、しかも (理由はよくわかりませんが) 江戸時代後期から明治にかけて尾形光琳に比べて著しく評価が低い時期が続いたようです。明治後期から大正にかけてようやく尾形光琳に多大な影響を与えた俵屋宗達が再評価されるようになり、展覧会でも尾形光琳らと並んで展示が行われるようになりました。ただ尾形光琳に対する長い間の「巨匠イメージ」が影響したのでしょうか、このような展覧会のタイトルとして1970年代頃から彼らは「琳派 (光琳派)」と呼ばれるようになり、俵屋宗達は「琳派の先駆け」とか「琳派の祖」と呼ばれるようになってしまいました。本当は「宗達派」と呼ぶべきではないかと私は思ったりするのですが。

俵屋宗達が尾形光琳などに与えた影響はその作品からすぐわかります。私たちが日本史の授業で俵屋宗達の代表作として覚える『^{ふうじんらいじん}風神雷神図屏風』ですが、この作品は尾形光琳も (教科書・試験には出ませんが琳派の一人・酒井抱一も) 忠実に模写を行っていて、鑑賞者はその特徴の違いを楽しんだりしています。風神雷神 俵屋宗達、風神雷神 尾形光琳 で画像検索をしてみてもそれぞれの風神雷神図屏風を比較してみてください。(受験上は「風神雷神図屏風 = 俵屋宗達」です。また、興味があれば 風神雷神 酒井抱一 でも検索してさらに比べてみましょう。)